

日本福祉大学 第30号 松本オフィス通信



- No.1 学生奮戦記
- No.2 大学生生活を諦めたくない!
- No.3 日福卒業生は今
長野県地域同窓会セミナー報告
- No.4 NIPPUKU NEWS

学生奮戦記

今回、奮戦記に登場してくれたのはこの春、本学を卒業した4年生のおふたり。経済学部やスポーツ学部は多くの大学に設置されている学部ですが、4年間を振り返り、日本福祉大学だからこそ学べたこと、経験できたことを紹介していただきました。

新天地「愛知」での経験。 そして次のステージへ

経済学部 経済学科 4年
関 駿也 さん (梓川高等学校出身)



福祉大学の経済学部って？

みなさんは福祉大学で学ぶ経済学とは、どんな学びだと思いますか？介護施設の経営？病院の経営？などが浮かぶかと思います。確かにそれらについても学ぶことができますが、それだけではありません。日本福祉大学が大切にしている“ふくし”＝“ふつうの・くらしの・しあわせ”というキーワードをもとに、日常生活におけるお金の流れ、制度、データ処理・分析などを知多半島全域で実践的な授業を展開していくことで、地域で活躍できる人材を輩出していく学部です。私はこの4年間で授業だけでなく、課外活動を通じて「福祉を絡めた経済学」を学んできました。

ビジネスプランコンテストを通じて学んだこと

私が経験してきた課外活動の中で一つ紹介させてもいます。それは、東海市で開催された「私の夢プランわくわくコンテスト」での経験です。このコンテストは学生の部と社会人の部の2部門が設けられており、私は友人らとチームを組み、3年次と4年次の2回とも入賞することができました。



3年次は「五等分の花嫁祭～五つ子から新たなつながりを～」という題名のビジネスプランを考案しました。これは東海キャンパスが聖地となっている「五等分の花嫁」というアニメにちなんだイベントを開催し、観光客を呼び、東海市の魅力味わってもらうことを目的としました。

4年次は「につぶく生改造計画～地域交流拠点としてのラーニングコモンズ～」という題名のビジネスプランを考案しました。これは、本学のラーニングコモンズ※が十分に機能していないのではと疑問に感じたことがきっかけです。どのようにすれば機能していくのか仲間と議論を重ね、

このラーニングコモンズを地域の企業、住民、大学生の3者が日常的に交流、実践的な学習ができる交流地点にすることができれば、大学としてはより研究が捗り、地域としては地域活性化につながるという、お互いの相乗効果が期待できるのでないかと考え、このプランを考案しました。

これまでも授業でデータを扱い、プレゼンテーションをする機会はありましたが、授業とは関係ないところで、企業の方々に発表し、評価してもらうという機会はありませんでした。さらには、審査に関わる方は現役で企業の舵を取っている経営トップの方でしたので、いい加減な資料を見せるわけにはいかないというプレッシャーもありました。どちらのビジネスプランもともに、仲間と苦難を乗り越えながら掴んだ賞でしたので、受賞した時は嬉しく、自分自身も成長できた良い機会になったと思います。

このビジネスプランコンテストでは、資料やプランの作成方法はもちろん、チームの仲間とプレッシャーの中で物事を進めていく難しさ、やり切った際の達成感などを学ぶことができました。

※ラーニングコモンズとは…学生の主体的な学修を支援する空間のこと

「福祉を絡めた経済学」の視点から提案ができる営業マンへ

私はこの4年間で今回紹介させてもらった活動の他に、いくつもの貴重な経験をさせてもらいました。大学の4年間で得ることのできた知識、スキルを活かせると思い、卒業後は愛知県で広告関連の営業職に就くことになりました。

今後、様々な業界の企業を相手に仕事していくことになると思いますが、この4年間で学んだ「福祉を絡めた経済学」の視点から、提案をしていけたらと考えています。



子どもたちの素直さに魅かれ、 特別支援の道へ

スポーツ科学部 スポーツ科学科 4年
金子 怜央 さん (松商学園高等学校出身)



スポーツ科学部の魅力

スポーツ科学部の教育の特徴の1つとして、少人数教育が行われています。1年生の導入教育、2年生のスポーツフィールドワーク、そして3年生、4年生の専門演習は、担当する先生方と密に話し合ったり、悩みを相談したり、専門的な学習や研究を進めていくなど、安心して学びあえる環境が整っています。また、本学部では 約4割の先生が女性で女子学生の相談、支援やサポートが十分できる環境という点も魅力の1つとなっているかと思えます。

他にも、障害のある人もない人も使いやすい施設というコンセプトで作られた学部棟の「SALTO (サルト)」には、最新設備を揃えたスポーツ施設や研究施設など、充実した環境が整っています。スポーツが得意な人だけでなく、子どもから高齢者、運動が苦手な人、障がいがある人など、誰もが一緒に楽しめるスポーツを創造していくことができます。競技の成績や運動の得意不得意は関係なく、スポーツに少しでも関心があれば、スポーツ科学部での学びを深めていくことで、さらに広い視野でスポーツを見ることができるようになると思います。

「教師を目指す中での出会いや学び」

スポーツ科学部の教職課程では、保健体育の教員免許に加えて、障害のある子どもたちにも専門的に指導することができる特別支援学校の教員免許を取得できることが大きな魅力です。私もこの点に魅力を感じ、入学を決めました。

大学の講義と平行して、実際に小学校や中学校に出向き、通常学級の子どもたちや特別支援学級の子どもたちに体育の授業を行うなど、直接子どもたちに関わることができる活動が多くあります。

間近で先生と子どもたちの関わり方を見ることができ、改めて教職の役割について考えるきっかけにもなりました。



当初は子ども達への声かけのタイミングや様子の変化など、分からないこともありましたが、回数を重ね活動を行っていく中で、子どもたちの行動から、今は気分が乗らない時、今は好きなことに挑戦している時など、彼らの気持ちが少しずつ理解できるようになりました。徐々に会話をする時間や話題が増え、最初は遠くに感じていた子どもとの距離が近づきはじめてを体感できた時はとても嬉しかったです。

そして、今まで以上に「特別支援」に関わることや時間が増えたことで、特別支援学校・学級の子どもたちの魅力を直に感じるようになりました。子どもたちはとても素直で、自分の楽しいこと、嬉しいこと、嫌いなことを率直に伝えてくれる子どもが多いと感じます。私は、そんな子どもたちを体育や身体運動、遊びを通して、好きなことや得意なことをより増やしていけるような教師になりたいと考えるようになり、それが自分のやりたいことになりました。

今後の目標

スポーツ科学部ならではの様々な活動を通して、子どもたちと関わる楽しさや難しさ、仲間と一緒に試行錯誤しながら一つの活動を作り上げる楽しさなど、たくさんの経験を積み重ね、教育の魅力に触れることができました。

私は体育を専門に学んだ教師として、子どもたちに運動や身体を動かす楽しさを味わってもらえるような授業をつくりたいと考えています。また、運動を通して友だちやクラスの絆が深まり、時にはスポーツがその人にとっての生きがいになる、そんなきっかけを与えられる教師を目指しています。そして今後は、今よりもさらに、「誰もが自分らしく生き生きと生活できるような社会」を目指して、教員という立場で学校現場から貢献していきたいです。



長野県人会

みなさん、こんにちは！長野県人会会長の池野です。私は南信の松川町で生まれ、豊丘村で育ち、飯田風越高校に進学しました。祖母が認知症を患ったこと、高校で国際的な視点を学んだ経験から「しあわせ」とはなんなのかと考えるようになり、日本福祉大学社会福祉学部への進学を決めました。

私が入学した頃は、まだコロナ禍であったことからリモートでの授業が中心でした。大好きな長野を離れて愛知で一人暮らしを始めたものの、なかなか友達と会えなかったり、困ったときに相談できる相手がいなかったりと、閉鎖的な暮らしをしていました。とにかく授業や一人暮らしに慣れることを目標とし、また、福祉についてもっと勉強したいという思いから、地域の人と一緒にボランティアサークルの立ち上げを行いました。

3年生となった今では知多半島南部3町のサークルに所属し、様々な障害のある人への支援方法を勉強しています。

また、他大学のインカレサークルや学生団体に所属してみたり、様々なイベントに参加したりと、大学の枠を超えて人とつながることを意識し、愛知県の生活を楽しんでいます。

長野県で生活している時には気づけなかったことにもたくさん気づきました。例えば、家族のあたたかさです。家に帰ると、当たり前のように家族と会話をし、一緒にご飯を食べる。そのことがいかにかけがえないものであったのかを痛感しています。半年に1回帰省するしかないくらい頻度ですが、大学を卒業したら故郷に帰り、なにかしらの方法で人を笑顔にする仕事につきたいと思っています。

日本福祉大学には「県人会」という同郷の学生が集うサークルのような集まりがあります。

その中でも、長野県人会が一番大きな県人会です。南信、中信、東信、北信、それぞれのエリア出身の学生がいるので、愛知県にいながら、長野県内の文化の違いや地元ならではの会話を楽しむことができ、こころの拠り所のような存在です。

今年度は北陸・関西・静岡県県人会と合同で新入生歓迎会を行ったり、大学祭で肉巻きおにぎりを販売したり、活発に活動してきました。コロナ禍の前は、県会対抗のスポーツ大会やBBQ、クリスマスパーティー、地域のイベント参加などを実施していたと聞きました。みなさんと一緒に楽しい企画を考え、学部や学年を超えた仲間と一緒に県会を盛り上げていきたいと考えています。

県会を通してタテやヨコだけでなく、“ナナメ”のつながりをつくってもらえたら幸いです。

みなさんの大学生活が豊かになるようお祈りしています。

←2019年度、大学祭
長野県人会模擬店前にて



社会福祉学部 社会福祉学科 3年
池野 莉麻 さん(飯田風越高等学校出身)

大学生活を諦めたくない！

コロナに負けず、学内外で意欲的に活動を続けた在学生を紹介します。

スポーツ科学部 スポーツ科学科 3年
伊藤 桃香さん(諏訪二葉高等学校出身)



Q1.ダンス部の魅力はどんなところですか？

魅力は2つあります。1つ目は仲のよさです。学年男女問わずとても仲が良いです。練習中は真剣に取り組む活動していますが、休憩中や練習前後などは楽しく活動しています！

2つ目は色々なジャンルに取り組んでいることです。ダンスはHIPHOPやジャズ、リリカルなど様々なジャンルがあります。



私たちは今あげたジャンルはもちろんのこと、他にもK-popの完コピやミュージカル作品なども作っています。

昨年は話題になった映画実写版リトル・マーメイドよりアリエルをミュージカル作品として踊りました。約12分の長い演目ですが、曲の編集や振りも自分達で作った作品です。

Q2.部活動で楽しかった、嬉しかったエピソードは？

イベントや大学祭、自主公演など多くの方にダンスを見てもらえることが楽しいです。

1年生の時は新型コロナウイルス感染拡大により学外で活動する機会が少なかったため、観客の皆さんの前でダンスを披露することができませんでした。

2年生からは活動の幅を広げ、地域のイベントや大学祭も対面での開催となり、多くの方に見てもらえる機会が増えました。踊っている時、観客の皆さんが手拍子してくれたり、名前を呼んでくれたり、盛り上げてくれるので私たちも楽しく踊ることが出来ます。



Q3.苦しかったことや辛かったことはありますか？

振りを覚えるのに苦戦します。練習では振りを作ってくれたメンバーがリーダーとなり、全員に振りを移す機会があります。私はダンス初心者で入部したので上手くできなかったり、振りの覚えが悪くついていけない時がありました。

また、12月に行われた自主公演では、大学祭終了後の約1か月で新しく踊る振りを沢山覚えられないと悩んでいたため精神的にも大変だと思っていました。

ダンス部

Q4.活動を通して自分自身、成長したと思う所はありますか？

リーダーシップ力です。元々、人前に出てみんなをまとめたり、自分の意見を伝える事がとても苦手でした。しかし、振り作りを担当するようになってから、部員に指導する機会が増えたことで、自然とチームをまとめる力が身につけてきたと感じています。

また、今までは自ら意見を発することが少なく、みんなの意見を聞いていただけでした。しかし、活動していく中で同じ意見だとしても自分の言葉で考えを伝えたり、新しいアイデアがある時はその意見をしっかりと伝えられるようになりました。

Q5.ダンス部としての今後の目標を教えてください。

様々なイベントや行事に参加し、ダンス部の魅力を多くの方に伝えていきたいです。ダンス部はスポーツ科学部ができた時に発足した部活動です。そのため、まだまだ知名度が低いと思います。今年は自分たちでイベントを探して参加したり、自主公演を昨年よりもさらにレベルアップさせ、開催することで多くの方にダンス部の魅力を知ってもらいたいです！

Q6.自分自身の今後の目標を教えてください。

リーダーシップ力を発揮することです。4年生が12月に引退し、3年生が最高学年としてダンス部を引っ張っていく立場になりました。

リーダーシップ力が発揮できるようになったものの、キャプテンに沢山頼ってしまうこともあります。そのため主務としての自覚を持ち、私ができることは何か考え、自分から行動していきたいと思っています。そして部員全員から頼られる存在になりたいと思っています。



ダンス部 Gold Cats

部員数：15人
活動日：月曜日、木曜日、土曜日
活動場所：SALTOダンススタジオ等

過去の活動実績

- ◎USA Japan アリーディング&ダンス学生選手権大会2023 大学編成オープン部門 第1位
- ◎学内イベント披露 (大学祭、社行会、新入生歓迎会、オープンキャンパス)
- ◎半田ストリートテラス出演
- ◎かけはしこも食堂
- ◎ナゴヤアドベンチャーマラソン ボランティア参加
- ◎自主公演開催

施設で働く「相談員」の仕事とは？ ～社会人1年目の奮闘～

社会福祉法人サン・ビジョン
介護老人保健施設グレイスフル下諏訪
相談員 町田 柊斗 さん

(社会福祉学部 社会福祉学科 2022年度卒)



私が働く社会福祉法人サン・ビジョンは、愛知県に本部があり岐阜県と長野県で37施設153事業所を運営、2026年3月には東京都世田谷区にも施設オープンを控えています。その中で私は長野県下諏訪町にあるグレイスフル下諏訪という複合施設で介護老人保健施設(以下:老健)の相談員として働いています。

私は令和5年4月に配属され、11月まで介護職として利用者様のお手伝いをさせていただき、12月から相談員として働き始めました。



相談員の仕事

私自身まだ相談員になってから間もないですが、相談員の仕事内容や大変に感じていることについて紹介できればと思います。

相談員の仕事としては稼働管理とご家族様との連絡調整が主になってきます。

稼働管理では退所者が出た際、次の候補者の方に入所のご案内をします。施設は地域資源でもあり、ベッドが空くことは本来利用できるはずの方のご案内できていないことにもつながりますので、

次の候補者を適切に確保していくことも大事な仕事です。申し込みをいただいたら面接に伺い、その後契約を経て候補者として登録します。候補者の確保をすることで次の方の入所をスムーズにご案内できます。相談員は施設運営の中でマネジメントを担う重要な役割となります。



←現場経験を経て、現在は相談員として活躍されている町田さん。

また、ご家族様との連絡は基本的には相談員がメインで行います。緊急時や医療的なことに関して看護師など専門職から行うこともありますが、普段の生活の様子や物品の依頼、退所に向けてのご相談については相談員が連絡をします。特に退所後の行き先に関する相談は、専門的な知識やご本人の状態を把握したうえで、ご本人様やご家族様のニーズにできるだけ沿った提案をしなければならないため、経験と知識が必要な業務になってきます。

相談員になってからは仕事で関わる人の数が非常に多くなりました。介護職の時は担当しているフロアの利用者様と職員、その他の施設内の職員としか関わりはなかったのですが、相談員になってからは老健全体の利用者様とご家族様、法人内の他の事業所の職員、外部の事業所の方や病院、市役所など様々な方と連絡を取り合うので顔と名前を覚えることがとても大変でした。

老人施設に就職するというと、まずは介護職の選択肢が浮かぶと思いますが、施設では様々な職種の方が働いています。他職種で連携しながら働いていく事ができる職場でもあり、『相談員』という働き方があることを知り、少しでも興味を持っていたら幸いです。



在学生×同窓生が交流！長野県地域同窓会セミナー



“につぶく”という言葉がつながる安心感

2024年3月2日(土)えんぱーく(塩尻市)にて、長野県地域同窓会セミナーが4年ぶりに対面にて開催され、同窓生33名、在学生24名、教職員3名の計60

名が参加しました。冒頭の東條会長の挨拶では「会えない期間が長く続きましたが、“につぶく”という言葉が私たちを近づけてくれているのかなという安心感を皆さんのお顔を見ながら感じることができました」と久しぶりに顔を合わせて話せる機会を喜び合う声が聞かれました。

① ソーシャルワーク実習 長野クラス報告会



在学生のソーシャルワーク実習報告会も4年ぶりの対面開催となりました。発表を行ったのは昨年、長野県内の福祉施設等で実習を行った社会福祉学部3年生の14名。高齢、児童、障がいなどそれぞれの実習分野に分かれた5つのグループで発表を行いました。

実習現場での学び、実践した支援計画、課題や解決策、気づきなどをそれぞれ発表し、実習を終えた今後の課題としてコミュニケーションの大切さ、多角的な視点、専門知識を増やすなどを挙げました。実習担当の宮國先生からは、「1ヶ月余りの実習の中で、前半期では「利用者さんとのコミュニケーションが上手くいかない」と言っていた学生たちが後半期では「(利用者さんの)声のトーンが違うんです」など、ちょっとした仕草に気付くようになる」とのお話がありました。

③ 在学生×同窓生による意見交換会

こちらは同窓生と在学生が直に語り合う本セミナーならではのプログラム。今回も興味のある分野ごとに10～15名程度のグループに分かれ、ディスカッションが行われました。

実習を終えたばかりの学生たちの疑問や葛藤について、同窓生からのアドバイスがあったり、反対に学生たちのフレッシュな視点が同窓生たちの良い刺激となったり、さまざまな立場・視点から「ふくし」について意見が交わされました。福祉に長年携わってこられた先輩たちの言葉は学生たちに勇気を与え、背中を押してもらった」といった声も聞かれました。



② 同窓生の実践発表

原 智美さん(伊那市役所地域創造課)

日本福祉大学大学院の「福祉開発マネージャー養成プログラム」を履修された原さんの発表は、「地域共生社会の実現に向けて～伊那市らしい取り組みへの挑戦～」。

原さんが現在取り組んでいるプロジェクト「いなから」は①伊那から、②なから(長野県の方言でおおよその意味)、③カラフル(多様性を表現)といった3つの意味を含んでいます。伊那市のキャラクター「イーナちゃん」グッズの製作を通して、地域がつながり、誰もがいきいき活躍できる機会や共に暮らすまちづくりを実現することを目指しているそうです。活動を通して重要だと感じることは当事者意識、また、長野県の方言でもある「なから感」だとお話いただきました。



丸山 健太さん(北アルプス医療センターあづみ病院 居宅介護支援事業所)

1月1日に発生した能登半島地震の災害支援において長野県ふくしチームDWATとして先陣を切り、現地にいられた丸山さん。石川県能登町の避難所支援に携わり、避難者の声を聞かせてもらう中で、ソーシャルワーカーとして多くの学びを得たとその活動内容について紹介をいただきました。丸山さんが特に強く感じたのは「人が人を支え、支えられる」ということ。「支える」「支えられる」という一方の関係性ではなく、支援者と本人が人として出会い、支援の中で互いに成長することができるというお話に会場の皆さんも強く頷いていました。



80代の大先輩から10代の学生まで、幅広い年代、ご専門の方々「ふくし」を合言葉に学びを深める機会となりました。

1 犀川バス事故から39年 ~事故のことを忘れず、それぞれができることを~

1985年1月28日 午前5時45分。体育実習で長野県の北志賀高原に向かってバス3台のうち、最後尾を走っていた1台が、長野市内の犀川に架かる大安寺橋にさしかかるカーブでスリップをして、ガードレールを破り水深4メートルの川に転落しました。

バスには、総勢46名が乗車していましたが、22名の学生と教員1名、運転手2名が亡くなりました。

この事故から39年が経ち、今年も大学では追悼集会、現地では四十回忌法要が営まれました。



風化させずに、学生間でも語り継いでいきたい

2024年1月26日(金)には、美浜キャンパス内の友愛の丘にて「犀川スキーバス事故追悼集会」が執り行われ、同窓生や教職員、学生合わせて328名が参列しました。

この追悼集会は、バス事故で亡くなられた方々を追悼し、「福祉を学び、社会に生かしたい」「学生生活を謳歌したい」等の遺志を継ぎ、実りある大学生活を送ることの重要性を再確認すること、またこの事故のことを風化させずに語り継ぐことを目的に毎年、美浜キャンパス友愛の丘にて執り行われています。

冒頭に事故の犠牲者一人ひとりのお名前を読み上げた後、原田学長より追悼の言葉が述べられました。また学生代表として、自治会中央執行委員長の西川さんは「私たちは、この事故を深く知り、その教訓を学び、学生間でも語り継いでいく必要があると強く感じました。そして、先生・先輩方の夢や希望の光を私たちの心の中で灯し続けていきたいと思えます。」と語られました。最後に参列者は全員で黙とうをささげ、慰霊碑に向かって一人ずつ献花が行われました。

学生とともに継承を考える

命日にあたる1月28日(日)には、正源寺(長野市七二会)と慰霊碑前(長野市信更町)にて、四十回忌法要が営まれ、大学関係者だけでなく、長野県地域同窓会、事故当時を知る卒業生、現役学生の23名が参列されました。

数年前から松本オフィスとしても、長野県内で起きたこのバス事故のことを風化させずに次世代にも語り継ぎ、継承していくために何をすべきか考えています。その一環として、『学生とともに、継承を考える』とテーマを掲げ、昨年度より長野県出身の在学学生にも現地法要に参列してもらい、地元の長野県で起きた事故の概要・教訓を伝える機会を設けています。法要に参列した学生の声は右記をご覧ください。



卒業生や長野県地域同窓会もできることを

昨年の三十九回忌法要の時、ご遺族の方々から現地に来られることが困難になってきているというお話を伺い、長野県地域同窓会としても継承できることを検討してきました。

亡くなられた学生やそのご遺族の思いを、現地である長野県でも繋げていかなければという想いから、今年度は卒業生の皆さんと一緒に慰霊碑の清掃活動を行いました。

同窓生のご家族も参加され、その中の小学生に過去にこの場所で大きな事故がおきたことを伝えている同窓生の姿もありました。慰霊碑周辺の清掃をする中で、命の尊さと事故が起きたことに対する向き合い方など、心の奥にしみこんでいく何かを感じたとの感想も寄せられ、2024年度も長野県地域同窓会として、現地の清掃活動が継続されていくことが決まっています。

「亡くなられた方や事故のことが忘れ去られてしまうのが一番悲しい。同じようなことが起きないことを願い、亡くなった方に恥ずかしくないよう精一杯生きていきたいです。」と当時バスに乗車されていた卒業生の香山さんのメッセージが印象に残っています。



バス事故のことは、当時の新聞や資料を読んでいたもので、知っているつもりでしたが、正源寺のご住職様から当時の状況を教えてもらい、また当時のバスに乗車されていた先輩の話や先輩の話を聞く中で、まだまだ知らないことが沢山あることに気がつきました。

寒かっただろうな、暗い中突然のことで怖かっただろうな、犠牲になった学生の保護者はどんな思いで現地にかけたのだろうか、友人や大学の仲間はどんな思いをしたのだろうか？

様々なことを想像しながら、慰霊碑の横に立った時に、犀川から吹き付ける冷たい風の中、「怖い」という感情が生まれました。今までどこか他人事と感じていたバス事故のことが、初めて自分事として考えることができた瞬間でした。

故郷の長野県で起きた事故の事実は変えることはできませんが、先輩達からもっと学びたかったであろう大学で学びを充実させ、事故のことを後輩にもしっかり伝え、自分自身でできること(継承)を考えていきたいと思えます。



社会福祉学部 社会福祉学科 3年 池野 莉麻

「合格者のつどい 2024~につぶく信州の輪~」を開催!

本学入学を控えた皆さんを対象とした「合格者のつどい 2024~につぶく信州の輪~」が開催されました。昨年度は松本市内1会場での開催でしたが、今年度は飯田市内の会場も加わり、2日間に渡って開催しました。

今回、参加したのは本年度実施された入学試験で合格を獲得した長野県在住の高校生と日本福祉大学の現役在学学生、松本オフィス職員の計27名。当日は緊張をほぐすためのアイスブレイクから始まり、ゲームや自己紹介、先輩学生とのグループトークなどを通じて交流しました。先輩とのグループトークでは大学での学び(単位やゼミなど)の他にもアルバイトやサークル、下宿近くの利用しやすいお店など、私生活にまつわる質問もたくさん飛び交いました。先輩からはキャンパス内外の知っておくと良いお得な情報や、「必ずホームシック

になるから、今のうちにたくさん甘えとくといいよ!」など、経験に基づいたアドバイスも多くありました。

これから親元を離れて初めて一人暮らしをする長野県の皆さんにとって、同じような境遇を経て、愛知県で生活をしている先輩たちのお話はとても貴重なものとなったようです。

最初は緊張していた参加者の皆さんも会が進むうちに笑顔が多くなり、「2時間という時間があっという間でした!」「先輩からのアドバイスがすごくためになりました」などの嬉しいご感想をいただきました。

新生活の準備で忙しい中、ご参加いただきました皆さん、サポートしてくれた学生の皆さん、ありがとうございました。

4月から長いお付き合いとなりますが、どうぞよろしくお祈りします!



飯田会場 (2024.3.6)



松本会場 (2024.3.9)

日本福祉大学 松本オフィス

〒390-0815 長野県松本市深志1-1-24・3F
TEL: 0263-31-9011 FAX: 0263-32-8018
MAIL: e-matsumoto@ml.n-fukushi.ac.jp
OPEN: 火曜日~土曜日 9:30~17:30
CLOSE: 日曜日・月曜日・祝日



入試のご相談・面談をはじめ、ささいな事でも、お気軽にご相談ください!
なお、留守にしている場合がありますので、来室される場合は事前にご連絡いただけると幸いです。

松本オフィス通信のバックナンバーは下記QRコードからご覧いただけます↓



松本オフィスへのご質問・ご相談・来室の予約はこちらのフォームから▶

